

●奨励賞〔論文概要紹介〕

デジタルカメラを 活用した 「話すこと・聞くこと」 の指導

宮崎県宮崎郡清武町立清武小学校

さ の たくみ
佐野 工

【実践の概要】

「書くこと」や「読むこと」といった文字言語は、記録に残るので何度でも読み返すことができる。したがって、推敲等により自分の言葉のよさに気づいたり、友達の作品を読んで相手のことばのよさに気づいたりすることが容易である。一方、「話すこと・聞くこと」は、音声言語を用いて行われる活動であり、「その場限りで消えていく」という性質がある。そのため、記録に残すことは難しく、児童が言語活動を行っているその場での指導と評価が中心となる。そこで、本研究では、比較的整備も進んでいるデジタルカメラを活用し、自分の考えや思いを的確に伝え合うという「話すこと・聞くこと」の特質をふまえた授業及び日常における指導に取り組んだ。

【論文内容の紹介】

1. 授業における活用

(1) 録音機能を使った実践

これまで、自分の朗読の評価は、他の児童や教師、保護者など他者からの評価が中心で、自分なりの朗読の工夫が相手に伝わったのかを確認することは難しかった。そこで、デジタルカメラの録音機能を活用し、朗読を聞き直すことができるようにした。その結果、自分の朗読を客観的に評価し、改善しようとする姿が見られた。また、グループ内の児童からの評価も合わせて

行うことで、聞き手に心情や情景がどのように伝わったのかを意識する姿が見られた。

(2) 動画機能を使った実践

9月単元「ニュースを伝え合おう」は、自分たちの興味・関心のある事柄をニュースにし、互いに伝え合う学習である。デジタルカメラの動画機能を使い、インタビューや現場リポートなどグループで協力し撮影していった。話す速さや声の大きさ、間の取り方といった話し方だけでなく、目線の向きや資料提示の重要性などに気づく姿が見られ、伝える相手と場の状況を意識した豊かな言語活動につながった。

2. 日常における活用

本校では、朝の会において1分間スピーチを実施している。しかし、人前に出ると緊張して何を話せばよいか戸惑ってしまう児童や人前でも堂々と話すことができる児童など個人差が見られる。そこで、スピーチの説明資料となる写真を事前に撮影しておくとともに、スピーチメモを活用した準備を行わせることで、自分の伝えたいことを整理し、自信をもって話せるように支援した。音声言語に視覚的情報も加えたことは、聞く側の児童にとっても視点が明確になる効果があったと言える。

3. 活用イメージを広げる職員研修

機器を購入し環境整備を行ったからといってICTを活用した学習活動が日常的に展開されるわけではない。そのためには、教師が授業での活用イメージをもつとともにその有効性を体験する必要があると考える。そこで、デジタルカメラを活用した授業ワークショップ型研修を実施した。

4. 成果と今後の課題

デジタルカメラは、写真だけでなく動画や音声も記録することができ、多様な表現に役立てるだけでなく評価の手段としても活用できる。「その場限りで消えていく」という音声言語の特質

からもデジタルカメラを活用し、自分の発表を客観的に見つめさせたり、友達の発表内容を繰り返し聞いたりすることができ、その教育的効果は大きい。今後は、児童作品のデータベース化を進め、デジタルポートフォリオとして活用を充実させるとともに、年間指導計画の調整や機器の新規購入などハード・ソフト両面からの支援も行っていきたい。

●奨励賞【論文概要紹介】

ブログを活用した 学校の情報発信の取組

佐多岬ウォータージュニア

<http://blog.canpan.info/odomari-es/>

鹿児島県肝属郡南大隅町立大泊小学校

やましたせい わ
山下聖和

【実践の内容】

九州最南端の本校が取り組むブログによる情報発信の効果をまとめた。本校では、学校生活の日常をオープンに表現し、記事を読んで思わず微笑み心安らぐような癒しの情報提供に心がけ、更新頻度を高くして、情報の新鮮さを保っている。また、豊富な地域情報が南大隅町のファン作りにも役立っている。

【論文内容の紹介】

1. 本校の実態とブログ開設のきっかけ

本校は児童数 16 名、教職員数 9 名、完全複式学級 3 と特別支援学級 1 の計 4 学級である。PTA 戸数は 9 戸で校区には 476 名、約 230 世帯が暮らしており、高齢化率 50.2%である。

本校では、総合的な学習の時間において、地域の特性を生かし海での活動を中心に取り組ん

でいる。その活動をより計画的、系統的にしているため、昨年度よりB&G財団の「水に賢い子どもを育む年間活動型プログラム」を導入した。ここでの活動の紹介、報告をするために 2006 年 5 月、ブログ「佐多岬ウォータージュニア」を開設した。

2. 実践の歩み

(1) ネットで情報を発信する際のマナーやエチケットを理解する。

本校ブログの特徴は、1～6 年生まで全児童が、日常の思いや行事の感想等を記す「子ども記者」である。子どもたちは、「情報モラル」の指導を受けながら、コメントをもらえるような記事の工夫をしたり、様子がよく伝わるような文章を心がけたりしている。

(2) 教育活動における説明責任を果たす一つのツールとして活用する。

本校ブログは、総記事数 2,150 件、総アクセス数 125 千件を超えている。(1/28 現在) 多くの方々が閲覧しており、記事へのコメントは県外からも寄せられている。ブログの利点である携帯電話での記事のアップは、保護者に子どもの様子を速報で伝えることができる。授業や行事、係活動の様子や、帰りの会での会話、毎日の給食の記事など、見ている保護者も安心してもらえる内容をその日のうちに情報提供でき好評である。

(3) 地域情報の発信を外部とのコミュニケーションの手段として活用する。

学校と地域社会との結びつきが強く、記事の内容が校内の教育活動に留まっていない。例えば、「地域奉仕活動」、「相撲大会の指導」、「学習発表会での青壮年劇」などは、学校と地域の連携で成り立つ活動である。こうした活動の紹介記事に郷土出身の方から温かいメッセージが届く。これを子どもたちに紹介し、活動の振り返りと次回への意欲付けを図っている。地域住民とも記事を通した会話が生まれ、外部との交流が広がっている。

3. 研究のまとめ

主な成果は以下の通りである。

- ①全国の方とつながることで、子どもたちがより広い社会を認識する。
- ②教育活動における説明責任を果たす一つのツールとして有効である。
- ③全国から注目されることで、学校だけでなく地域も元気になる。

ブログのよさが伝え広がり、町内4校と教育委員会がブログを開設した。今後は、学校間の情報交換や子ども同士の連絡手段としての活用と共に、子ども記者の技術的、内容的な向上を図りたい。さらに、個人情報保護についても万全を期して取り組んでいきたい。